



ひまわり

(2)

差別の要因について

阿南市人権教育・啓発講師団

講師 酒井勝治さん

「差別」というのは固定観念や偏見により起こります。その要因の一つに日本古来の「穢れ(ケガレ)」思想があります。日本人の信じている「穢れ」とは、どのような特性を持っているのでしょうか。「穢れ」とは、不浄、つまり悪いもので触れてはいけないものという考え方です。

また、「汚れ(ヨゴレ)」と「穢れ」は全く違うものです。つまり物理的に証明または確定できるのが「汚れ」であり、感覚では感じるのだが存在を証明することも確定することもできないものを「穢れ」といいます。また穢れの種類も多岐にわたります。病気や死、出産、さらには風雨地震のような天災、鳥や虫による災い、狐狸や妖怪の仕業とされていた不可思議な災い、犯罪や刑罰に関するものなど、非日常的なものに触れる

ことも穢れとされ、またその原因と考えられました。

日本人はいつ頃から穢れを信じるようになったのでしょうか。大和朝廷が成立したときには既に、日本人に浸透していたと考えられます。日本最古の古典である『古事記』(712年)に、「罪も災いも過ちも同じく穢れである」ということが書かれています。人間にとって良くないものすべてが「穢れ」として描かれているのです。

そして、こうした穢れに常に触れていると、穢れがどんどん蓄積していつて、とれなくなってしまう、と考えられていました。だから、このような穢れが蓄積されていると思われていた人たちは世間から隔離されることになるのです。これが差別の構図です。

つまり、穢れを信じる人にとって「罪も災いも過ちもみな同じく穢れであり、悪霊の仕業だと考える」ということなのです。

固定観念や偏見は、人の行動のあらゆる側面に影響を及ぼします。しかし、私たちはその事実に気づかず、差別を起こしてしまうのです。それは私たちが差別の要因を正しく理解していないからだと思えます。私たちが差別を解消していくには、差別の要因を正しく理解し、そして社会にはびこる不合理なものを取り除いていくことが必要なのです。

ほらみんな外は晴れよ

阿南市人権教育・啓発講師団

講師 美馬育子さん

「ほらみんな外は晴れよ」は、私の生涯でたった1冊自费出版した本の題名です。久々にページをひもいてみました。

教育者としての出会いや失敗や感動をまとめた25年前の著書ですが、その中にこんな文面があります。

「子どもはまさに宝石である。どんな子どももすべてが宝石である。長い人生で一度や二度のつまずきで、人間の価値など決して決まりはしない。ましてや、子どもの頃の失敗などは：その宝石に愛を与え内からきらきら輝かすのは大人の愛の力以外無いのである。私は信じている『ほらみんな外は晴れよ』に書けた少年も、書けなかった少年も、いつか必ず、愛を注げる大人になることを。少年たちよ、外へ出てこらん。胸を張って青空の下を歩きなさいよ、誰に遠慮もいらぬのよ、あなたの地球ですもの。素晴らしい大人もいることを信じて：」

その答えは、彼、彼女たちが大人社会で自らの生き方の中で応えてくれています。うれしい限りです。

しかし、現実の私は愛する側の大人で人生も終盤を迎えています。愛するとは？をいまだ自分に問い続

けていました。そんな折、ある研修会で堂々と語っている一人の女性と出会いました。

「私は40年間人権について学び続けてきました。今私は学んだことはあなたにとって何だったのかと自問自答しています。そうしたら、今日皆さんに聞いていただけたこんな優しい私になることができました。」と。お話を聞きながら、私の目からは涙があふれました。そうか、愛とは優しさである。人は自分を優しくするために学び続けているのだと再確認できました。

皆さまもご承知のことと思います。今年10月、阿南市では日本女性会議〈男女共同参画〉2013あなんが開催されます。今、私たち市民は9つの分科会で語り合い、意見を出し合い、熱心に学んでいます。人権感覚を研ぎ澄まし、愛にあふれた優しさの笑顔あふれる阿南市は、私たち一人一人の学びと実践からと信じています。そんな阿南市を、次代を託す若者や子どもたちへ伝えていくにはありませんか。皆さま方のご参加を心よりお待ち申し上げます。

問い合わせは

人権・男女参画課

(☎22-3094)

